
共同研究「初級フランス語教科書の研究および作成」経過報告

佐藤 夏生・西野 清治

この共同研究は、初級フランス語教科書を作成することと、教科書に含まれる語彙の研究という2つの部分からなる。まず、教科書の作成は本学の専任教員2名に加え、非常勤講師2名（うち1名はネイティヴスピーカー）の助けを借りて進められている。当初は、フランスの文化や風土を紹介することにより大学生にとって多少なりとも読んでおもしろいようなテキストを含んだ文法読本を作ろうと考えていた。しかしあるとき、教科書関係に通じておられる田島宏先生という方から助言を受けたのをきっかけに、コミュニケーションを中心にしたものを作る方へと方向転換した。初級のクラスは2種類あるので、教科書も2種類作ることにした。一方はコミュニケーション表現クラスで使うものであり、もう一方はコミュニケーション理解クラスで用いる予定のものである。前者も後者もダイアログを中心に構成される。前者では口頭でのやりとりの練習問題が付加されている。後者では、やはり最低限の文法を学ぶ必要はあるので、文法的な説明も加えられるが、練習問題はで

きるだけ質問—返答形式のものにする予定である。現在は、来年度前期の授業で使う部分の完成を急いでいるところである。年明けからは、残りの部分の作成にとりかからないと後期に間に合わないというような状況である。ちなみに、こうして作られた教科書は生協で製本してもらったものを授業で使いながら修正していくつもりである。

次に教科書の語彙に関する研究では、対象を動詞だけにしぼり、動詞句の一部として現れるものの出現回数を調べている。今のところ、調べ終わったのは、野村二郎「パリ一周12課」だけである。この教科書の中で出た動詞の種類は173種類で、出現回数の多い上位5つは、1位 être（です、いる、ある）236回、2位 avoir（持つ）115回、3位 aller（行く）65回、4位 aimer（愛する）29回、4位 parler（話す）29回、である。今後、あと何冊かについて同様に調べ、日常使われる頻度の高いとされている動詞の扱われ方、あるいは個々の教科書の性質と動詞の出現状況との関係などについて考える予定である。